

## 4-2 過去の調査結果との比較

### 1) 緑被率の推移

#### 1) - 1 緑被地の区全域での推移

- ・ 緑被面積300㎡以上における昭和49年から平成26年までの比較と、緑被面積100㎡以上における平成元年から平成26年までの比較を行った。
- ・ 調査手法、精度が異なるために単純な比較はできないが、300㎡以上では減少傾向にあるが、100㎡以上では平成21年以降は増加している。

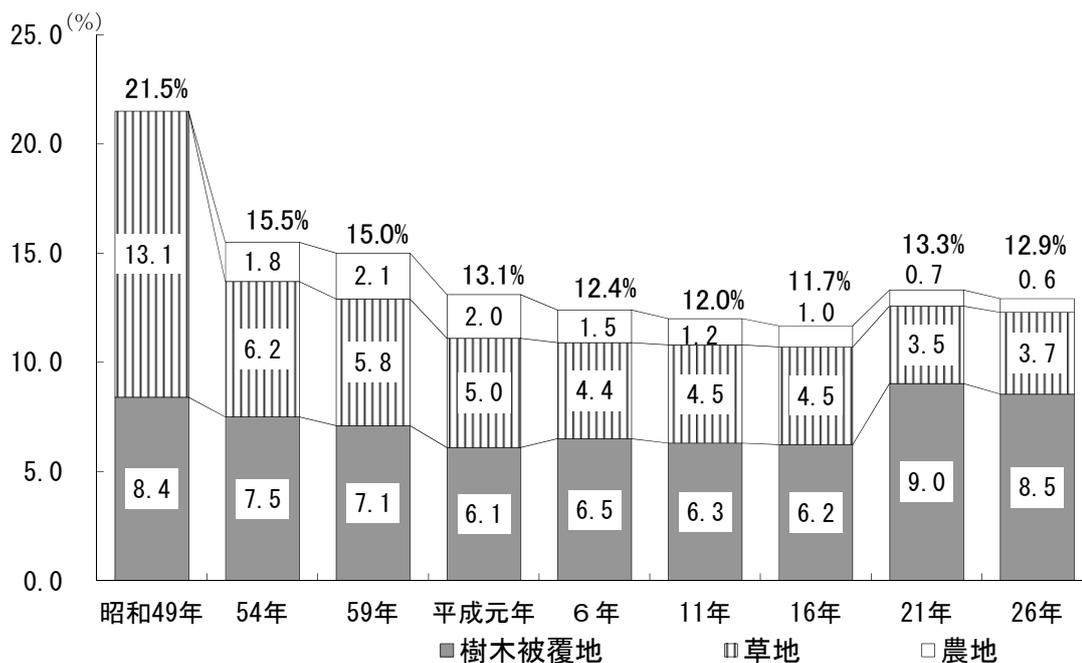
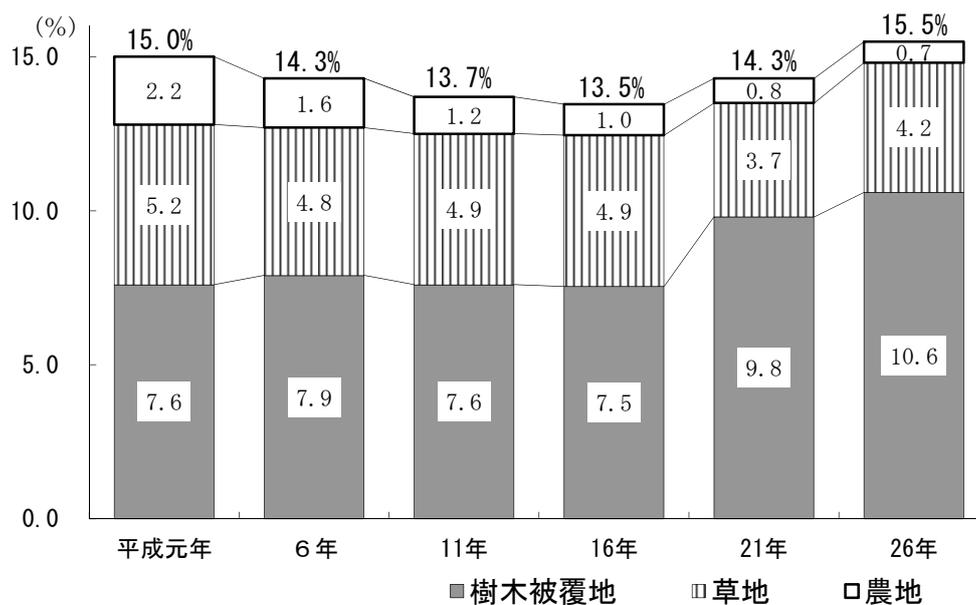


図4-28 区全域の緑被率の推移（300㎡以上の緑被地を対象）



※小数第2位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある。  
 ※屋上緑化は樹木被覆地に計上

図4-29 区全域の緑被率の推移（100㎡以上の緑被地を対象）

## 1) - 2 緑被地の前回調査との比較（区全域）

表4-17 緑被地の変化（1㎡以上の緑被地を対象）

項目	平成21年		平成26年		増減	
	面積(ha)	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)	面積(ha)	構成比(%)
樹木被覆地	460.5	14.3	457.4	14.2	▲ 3.2	▲ 0.1
草地	134.4	4.2	161.0	5.0	26.5	0.8
農地	26.8	0.8	22.1	0.7	▲ 4.7	▲ 0.1
屋上緑化	8.3	0.3	11.3	0.4	3.1	0.1
緑被地計	630.0	19.6	651.7	20.3	21.7	0.7

※小数第2位で四捨五入しているため集計値が合わない場合がある。

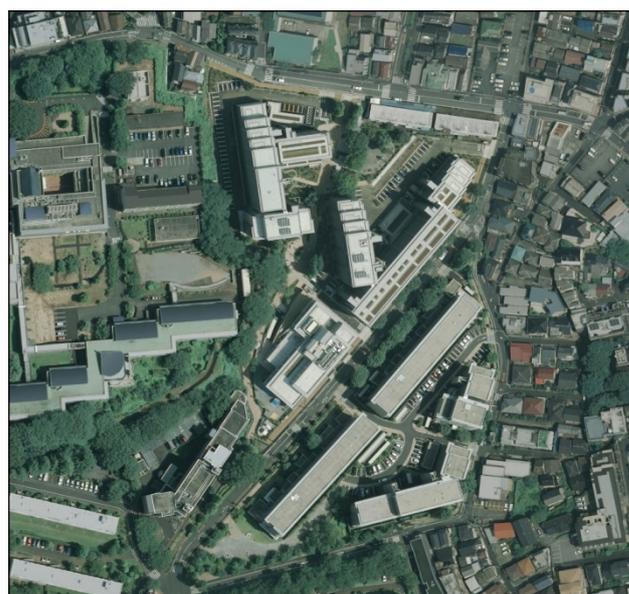
- ・ 「緑被地」面積では平成21年から平成26年で21.7haが増加し、「緑被率」で0.7ポイント上昇した。
- ・ 「樹木被覆地」が3.2haの減少、「草地」が26.5haの増加、「農地」が4.7haの減少、「屋上緑化」が3.1haの増加であった。
- ・ 「樹木被覆地」では、前回調査で「人工面」「草地」「農地」「裸地」であった箇所から「樹木被覆地」に変化していた面積が約98.7haであった。
- ・ 前回調査「樹木被覆地」が「人工面」「草地」「裸地」に変化した面積が約101.8haであった。
- ・ 建築計画等に伴って新たに緑地の整備が行われたことで、樹木被覆地が増えてはいるが、同時に樹木や樹林の伐採も行われており、増加面積より減少面積が上回っているため、樹木被覆地が減少した結果となった。
- ・ 樹木被覆地の減少箇所の多くが写真撮影時点は更地であり、建築物等の建築により今後は「樹木被覆地」「屋上緑化」等が増加すると思われる。
- ・ 「草地」の増加については、学校のグラウンド芝生化や建替えに伴う草地整備等によるものである。
- ・ 「農地」では、前回調査の「農地」が今回調査では「人工面」「草地」「樹木被覆地」に変化することで減少となった。
- ・ 「農地」から「樹木被覆地」の変化より、宅地化によって新たに緑地整備が行われていることが分かる。



【樹木被覆地減少の例】向原団地 向原三丁目

平成 21 年

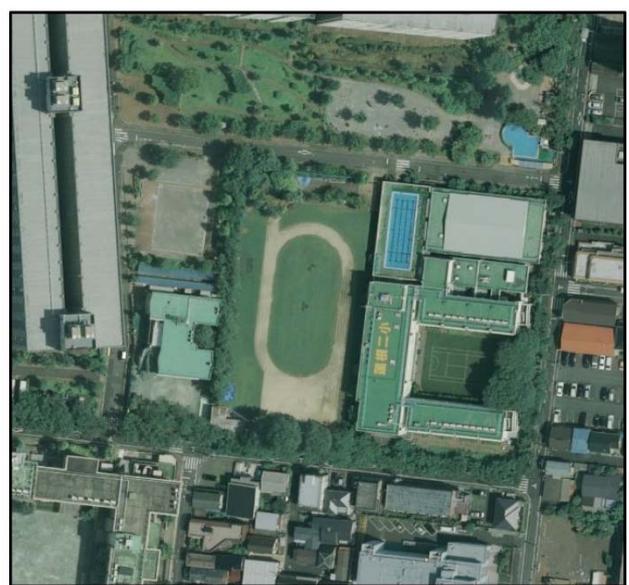
平成 26 年



【草地増加の例】蓮根小学校 蓮根三丁目

平成 21 年

平成 26 年



【草地増加の例】旧志村高校 西台一丁目

平成 21 年

平成 26 年



【屋上緑化・草地増加の例】帝京大学付属病院 加賀二丁目

平成 21 年

平成 26 年



### 1) - 3 緑被地の長期的な変遷（区全域）

- ・ 明治時代は「農地」が、区のほとんどの「緑被地」を占めていたが、宅地化、工業化等の開発の進行に伴って減少していった。
- ・ 現在「農地」は赤塚地域を中心にわずかに残っている状態である。
- ・ 「樹林地」は荒川低地と武蔵野台地との境界の崖線に、斜面林が連続して存在していたが、住宅地等の開発によって減少し、現在は公園緑地を中心に一部が残っている状態である。

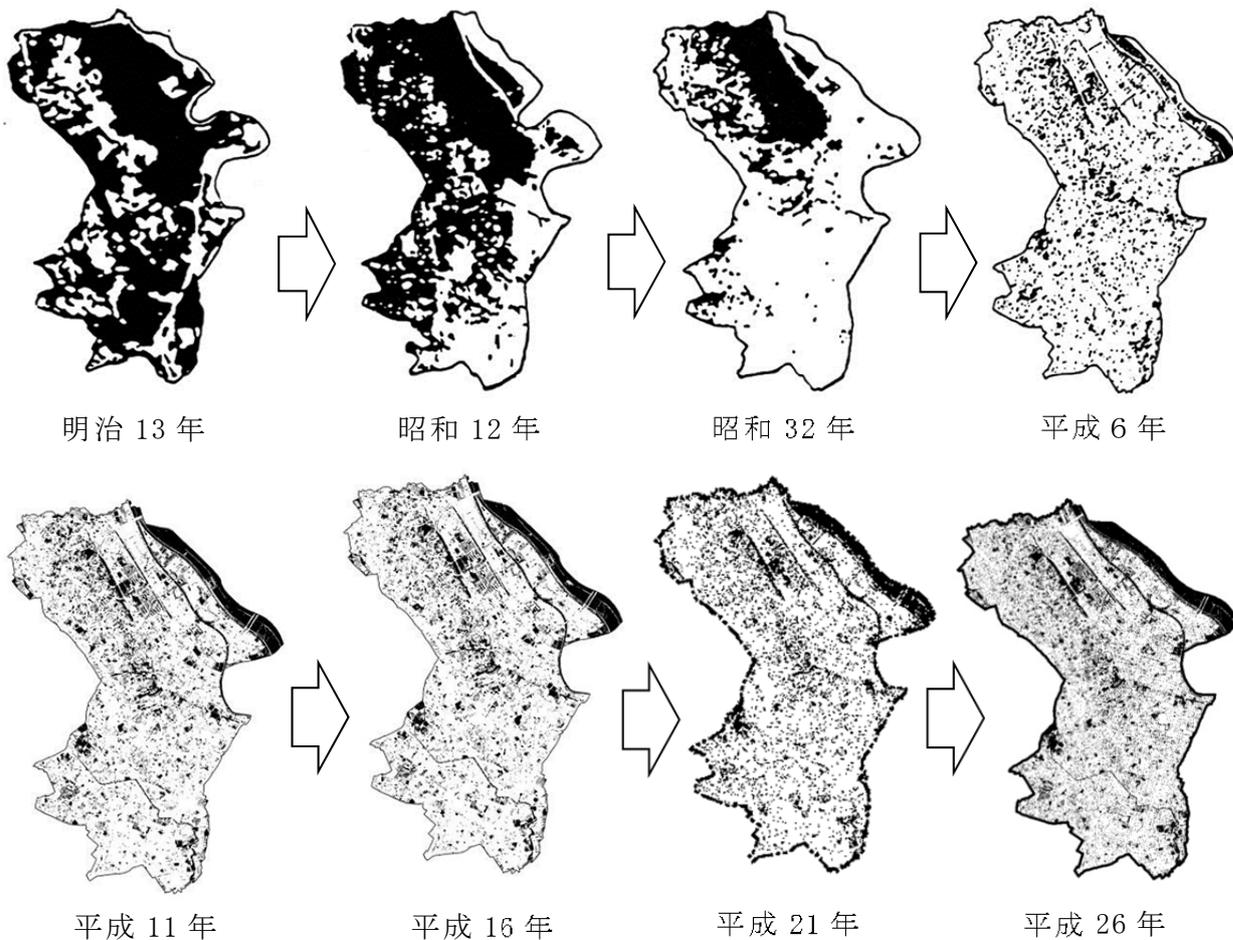


図4-31 緑被地の変遷